

大坪本流要之卷

爪者蹄也先師之要トスル所心躰荷持  
之元ナレハ蹄ヲ能知リ能搗スニハ有ヘカラ  
ス千里之駿馬トイヘ凡蹄惡敷トキハ其  
徳何ノ益力有ランヤ四煩ノ症モ蹄ノ育  
惡敷爪ヲ搗変不可ナル故也血脉滯テ  
四蹄癢契スル者也是故馬々ノ爪生ヲ  
察シ踏付ヲ辨テ搗之トキハ血脉流  
行正シク爪生々シテ堅ク定輕クナワテ  
千里ニ至ルヘキ者也

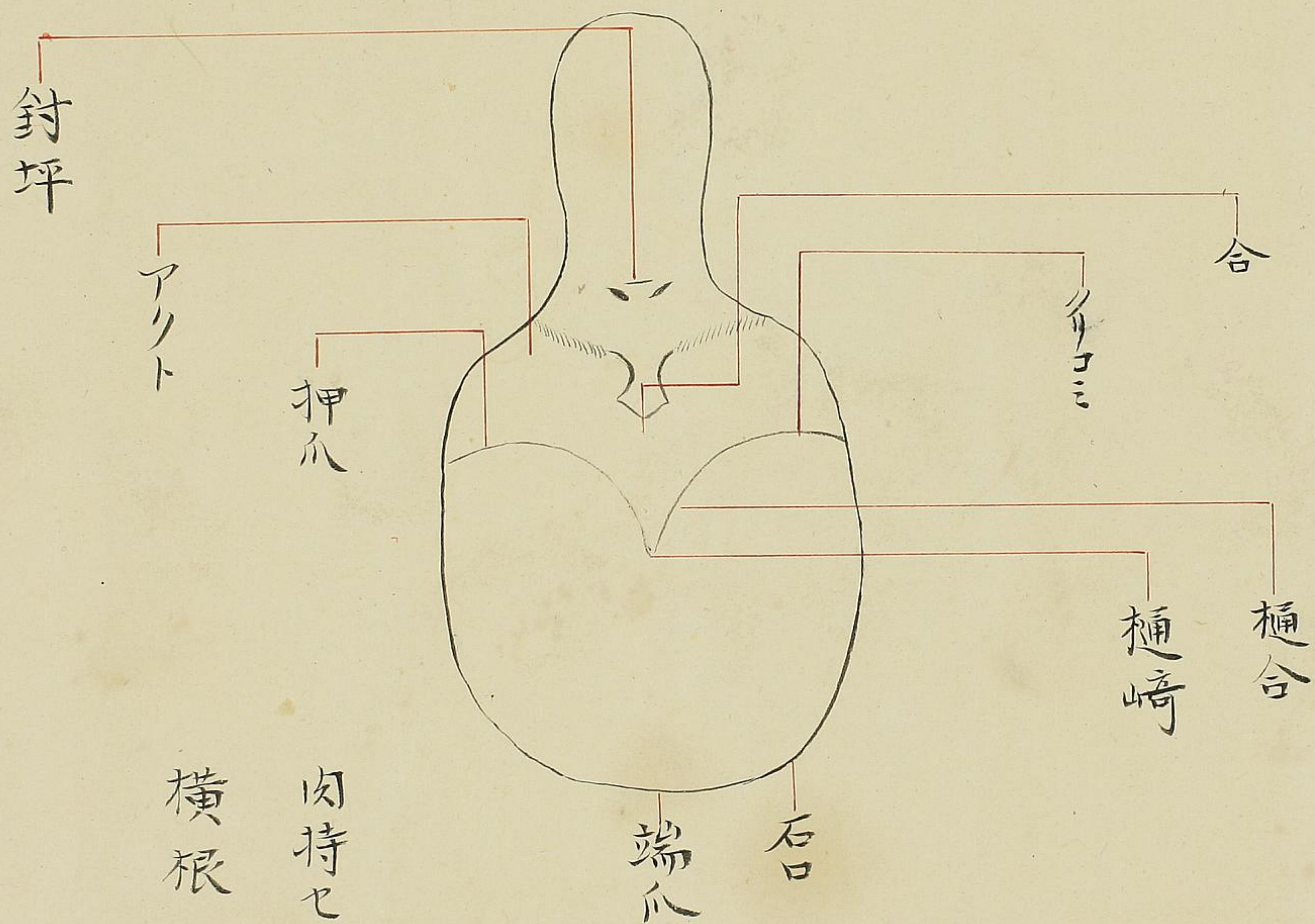


明治三十八年一月三十日

子爵足利於菟丸氏寄贈

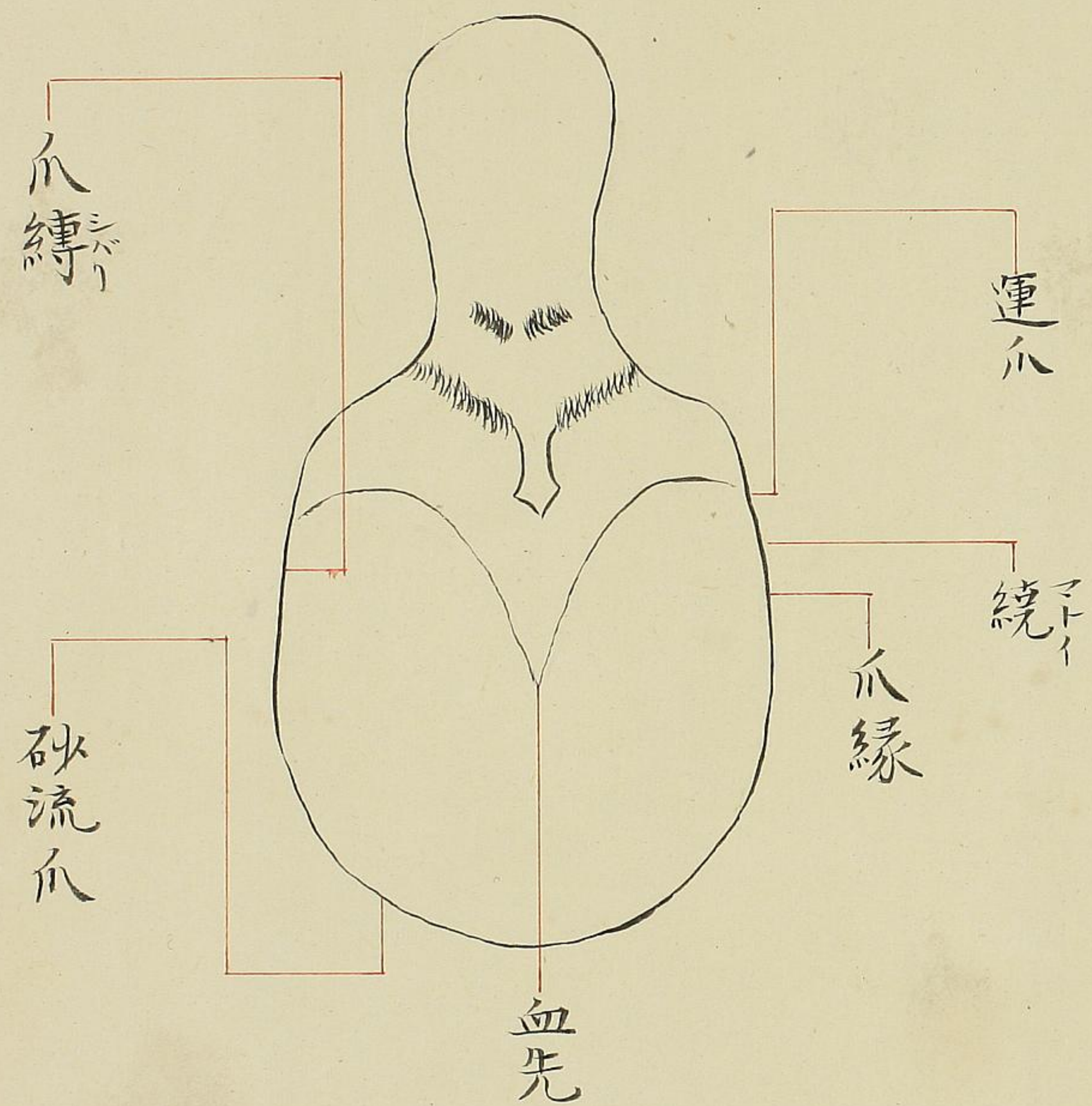


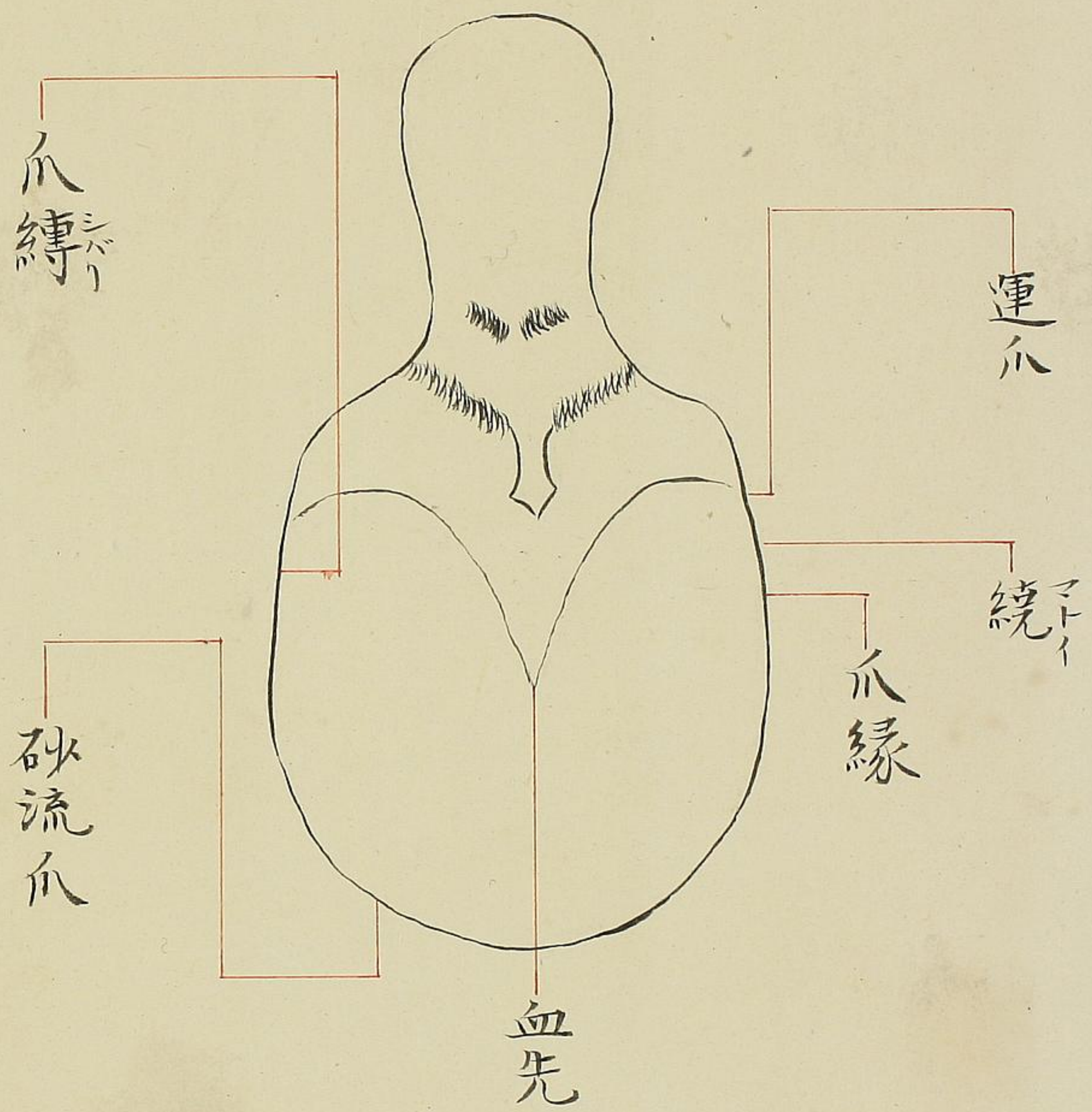
当持也或露受氏云



後爪名所同断

後爪名所同断





瓜裏ノ惣名ヲ指テ胡桃形ト云也瓜ヲ搗  
 時ハ先瓜搗板ヲ直ニ敷セサテ馬ヲ引掛板  
 ノ上へ前足登リタル時口ヲ高ク取セ左ニ  
 瓜搗刀右ニ槌ヲ取テ指奇槌ニテ板ヲ二  
 三ツ拍テ馬ニ知セ外貝ノ押へ際へ刀ヲ立丸  
 ミヲ以シ深く掛テ目付ハ瓜ト刀ノ間ヨリ  
 ヒツミヲ見テ槌ヲ打掛方クリキリニ次第  
 ニ刀ヲ下テ瓜崎ノ方へ打奇又刀ヲ取直  
 シテ内貝ノ押へ際へ刀ノ丸ミヲ是モ深ク  
 掛テ目付ハ右同断能々ヒツミヲ見テ槌ヲ  
 打掛送切ニ次第ニ瓜崎ノ方へ打奇角十  
 キ折敷ノ如ク搗へシ後瓜ハ櫓形ヲ心得テ  
 搗タル吉故ニ後瓜ヲ椎瓜ト世ニ人ノ云也

搗タル吉故ニ後爪ヲ椎爪ト世ニ人ノ云也  
同裏ヲ取時ハ先コヲ直ニ取セテ可也足ヲ  
拘ヘル者ハ右ノ爪ノ時ハ右足ヲ踏込膝以  
ニ馬ノ鏡節ヲ持セ腰ヲ居ヘ左足ヲ踏  
張ルヘシ左手ニテハ折目際ヲ取右手ニテ  
ハ腕コヲ持スヘシ左爪ノ時ハ左足ヲ踏込  
膝頭ニ鏡節ヲ持セ腰ヲ居右足ヲ踏張  
右手ニテ折目際ヲ取左手ニテハ腕コヲ  
持スヘシ其後爪ニ向テ裏糸刀ヲ右ニ  
持左手ニテハ爪甲ヲ取テ腰ヲ居瞬ヲ  
身ニ副テ刀ヲ右ノ押ヘノ爪際ヨリ當ク  
リスキニ左ノ押ヘ際ニテ刀ノ行マニスクヘシ  
板刀ヲ取テ内ノ押ヘ際ノ村ヲスキ取テ吉  
其後樋崎ノ向ヲ直ニ肉合ヲ心得テ村ヲ  
取ヘキ者也胡桃形ヲ取ニハ樋崎ヘ刀ノ  
刃ヲ上ヘナシテ當押ヘノ方ヘ臂ニテクルリ  
ト廻シ又刀ヲ取直シテ刃ヲ上ヘナシ樋崎  
ヨリ押ヘノ方ヘ臂ニテ是モクルリト廻シ  
テ吉其刀ニテ左右ノ押ヘノ肉際ヲ少シ  
ツハケツリ合目ヲハ矢筈刀ニ少シ取テ爪  
ノヒツミヲ勘ヘ爪搗刀ヲ取テ左右ノ  
押ヘノ一文字ニ當槌ヲ搗掛テ踏付ノ  
直ヲ搗也爪搗人ノ足ノ踏様ハ得方ニ

直ヲ搗也瓜搗人ノ足ノ踏様ハ得方ニ  
ヨルヘシ

瓜ノ大ナルハ丸瓜ニ廻ニタル吉小瓜ハ三  
方一文字ニ角ヲアラセテ搗ヘシ立瓜ハ  
樋崎ヲ伸テ押瓜ヲ居竹子刀ニ心得  
テ搗ヘシ勿論右ノ誤歟右口ニハ少シ肉ヲ持セ押  
瓜ノ裏ニハ矢筈刀ヲ當ヘシシラル申尺  
出来ル瓜直ニナルヘシ

及瓜ハ向ヲ搗詰押瓜ヲ立胡桃形ヲ  
開カセ樋崎ヲモ詰テ野燒ヲ折々  
當ヘシ一度ニ直サントスル一惡敷也向瓜  
ヲ詰ルニ裏ヲ取樋崎ヲ詰ルニモ礼刀  
トテ敬テ深キ刀ヲ搗一アルヘカラサル  
者也

田瓜俗ニ棋子瓜トモ云也裏ヨリ直スヘキ  
者也肉ノ持セ所スキ所ヲ筋ヘシ瓜ノ繞  
廣ク見ヘハ瓜縛ヲタスケテ搗ヘシ割見  
刀ヲ常ニ心得テ搗ヘキ者也

貝瓜ハ裏ニ湯金ヲ重ク當向脇ヲ丸ク  
ケツルヘシ裏ノ繞廣ク出ハ裏ニ刀ヲ當ル  
一用捨スヘシ又脇ヘ瓜性出テ向結ルト  
見ヘハ脇瓜ハ割見刀ヲ當ヘシ木方瓜ハ  
表ニ湯金ヲ重ク當テ向瓜ニモ野燒ヲ

表ニ湯金ヲ重ク當テ向瓜ニモ野燒ヲ  
當テ可也腸瓜ヲハ弱マセテ向瓜ヲハ  
一文字ニ搗ヘシ勿論闇見刀ヲ心得テ  
搗ヘシ

曲瓜廿ニ外齒見瓜氏云也反テ長キ方  
ヲ居テ矢筈刀ヲ添テ搗ヘシ二度目ニ  
ハ短キ方ヲハ弱刀ニ搗反テ齒出シタル方  
ヲハ闇見刀ニ搗ヘシ勿論横根ノ取テ極  
崎ハ直ニ取ヘキ者也

猫瓜ハ握瓜ヲ云也煮藥ヲ仕懸湯  
金ヲ折々當テ先瓜ヲ出ス一ヲ專トス  
ヘシ押瓜ヲ立樋崎ヲ伸テ兩脇ニ肉ヲ持  
セル様ニ搗ヘシ常ニ毫毛ニ灸スヘシ

前掛瓜ヲハ木瓜ヲ居テ四跣ヲ揃ヘ  
直ニ搗ヘシ後瓜ノ木瓜詰タルハ直リカ  
ヌルト知ルヘシ後瓜立テ踏テ前掛ハ後  
瓜ヲソハマセテ前瓜ノ直ヲ搗ヘシ

同前瓜ニテ前掛ル一アリ掛サル方ノ瓜  
ノ外貝ヲ居テ可也

舩ノ挾過タル瓜又ハ中節ヨリタルニハ外  
貝ヲ居テ搗ヘシ

舩開キ過タルニハ外貝ヲ立内貝ヲ居テ  
搗ヘシ



搗へシ

前ヲ結フニ内貝ヲ居テ可也前足ノ間  
廣過タル馬ニモ吉

同前ヲ割ルニハ外貝ヲ居テ搗へシ早馬  
ノ爪搗ヤウ運ノ位ニ大事

爪ニ四ツノ持セ所之事

三曲尺之事

二曲尺之事

浅裏爪ハ大概石ニ懸ル者也俗平臺  
爪ト云也貝爪ノ類タルヘシ押爪ヲ生立

裏ヲ数度ニスキ取テ湯金ヲ當只後  
鳥金膏ヲ付へシ

裏虫爪ハ石ヲ燒テ其石ノ上ニ塩筵ヲ懸  
馬ヲ其筵ノ上ニ立置脇ヨリ水ヲ掛へシ

水火ノ勢カ奈シテ塩爪裏ニ入テ虫ヲ殺  
之爪精ヲ強クナス者也惣而此法ハ

裏痛ノ類ニ専用也

裏虫ニハアラスシテ爪ノホロトカケ研クル  
爪アリ歴ノ湿リ過タル故也既ヲ干シ

テ可也爪ノ朽タル所ヲハ口口ノト搗詰  
テ煖藥ヲ以テ治スヘシ

爪縮ハ駒ノ時骨筋ヲ強ク遣タル故也

又裏ノ取ヤウニ村有テ表ニ干ハラ出来

又表ノ取ヤウニ村有テ表ニ千、ラ出来  
モアルヘシ千、ラヲ鍬リ落シ裏ニ村ノ十  
キヤウニ取ヘシ

豎篠割瓜ニハ其篠割所ヲ劬ヘテ押  
瓜ニ刀ヲ持セ或シラレ曲尺ニ搗テモアル  
ヘシ但篠際ヲヨリ通シ穴ヲ開テ其穴ハ  
鏗節ヲケツリセシニサシコシテ瓜ノ伸ル  
ヲ待ヘシ糯米ヲ飼タレ馬ハ必ス瓜割  
ル者ナリ

横篠切瓜ニハ瓜ヲ四所ニテ持セ少立位ニ  
搗ヘシアクトノ方ヨリ割タレヲ横篠切  
氏俗ニ横フツキレ云也麩粘ヲ以テ治  
スヘシ

石割瓜ハ端瓜ハカリ必宛カケ研クル  
ヲ云也端瓜ノ内ヲ四所ホトサシ切カ  
ケテ置ヘシ合割ハ猪油ヲ付テ治ス  
ヘシ初癸ニハ夕シカ子ヲ付テ可也第  
一麩粘ヲ吉トスヘシ

腕ニ悪血ナトアル馬ハ朝露ノ内野原  
ニテ乘ヘシ冬ハ雪ニ乘モ可也瓜ヲ

常ニ搗ニハ肩口ヨリ瓜崎マテ直ニウ  
チ出ス如ク搗ヘシ然レシラレ曲尺ヲ  
心得テ搗ヘキ者也

手出ス如ク搗ヘシ然レシラル曲尺ヲ  
心得テ搗ヘキ者也

爪際腫又ハ瘡ヲ生スルノアヲハ速  
ニ血ヲ放スヘシ朝毎ニ温補シテ可也  
爪ヲ搗テシラル曲尺ヲ吉トスル者也

野燒之事

口傳

湯金之事

口傳

禮刀之事

口傳

闇見刀之事

口傳

竹子刀之事

口傳

矢筈刀之事

口傳

烏金膏 俗裏膏藥ト云

紫礦

刀青

黄蠟

人髮

燒灰

右五味銅鈹内ニ於テ膏トナシ利刀  
ヲ以テ硬蹄ヲ削去テ膏ヲ塗立リ鉄  
燒ヲスヘシ口傳

右五味銅鈹内ニ於テ膏トナシ利刀  
ヲ以テ硬蹄ヲ削去テ膏ヲ塗テ鉄  
燒ヲスヘシ口傳

日本武尊

貞純親王

八幡太郎 義家

六條判官 為義

日本武尊

貞純親王

八幡太郎 義家

六條判官 為義

湯山入道 中原玄性

大坪式部太輔 廣秀

村上加賀守 永幸

齊藤備前守 國忠

齊藤安藝守 好玄

齊藤備後守 忠玄

齊藤存宮守 辰遠

丹列住僧了磨及坊

齊藤永馬 辰光

迎來流之本道鹿嶋流之大統

齋藤永馬

辰光

迎來流之本道鹿嶋流之大統  
大坪九世之孫馬術之長者

齋藤主稅藤原定易

久保田宗順

弘道

定易直弟

久保田多忠藤原弘隆

弘隆門人

堀江源五右衛門

天保丙申年

五月吉日

藤原弘前

弘隆門人

堀江源五右衛門

天保丙申年

五月吉旦

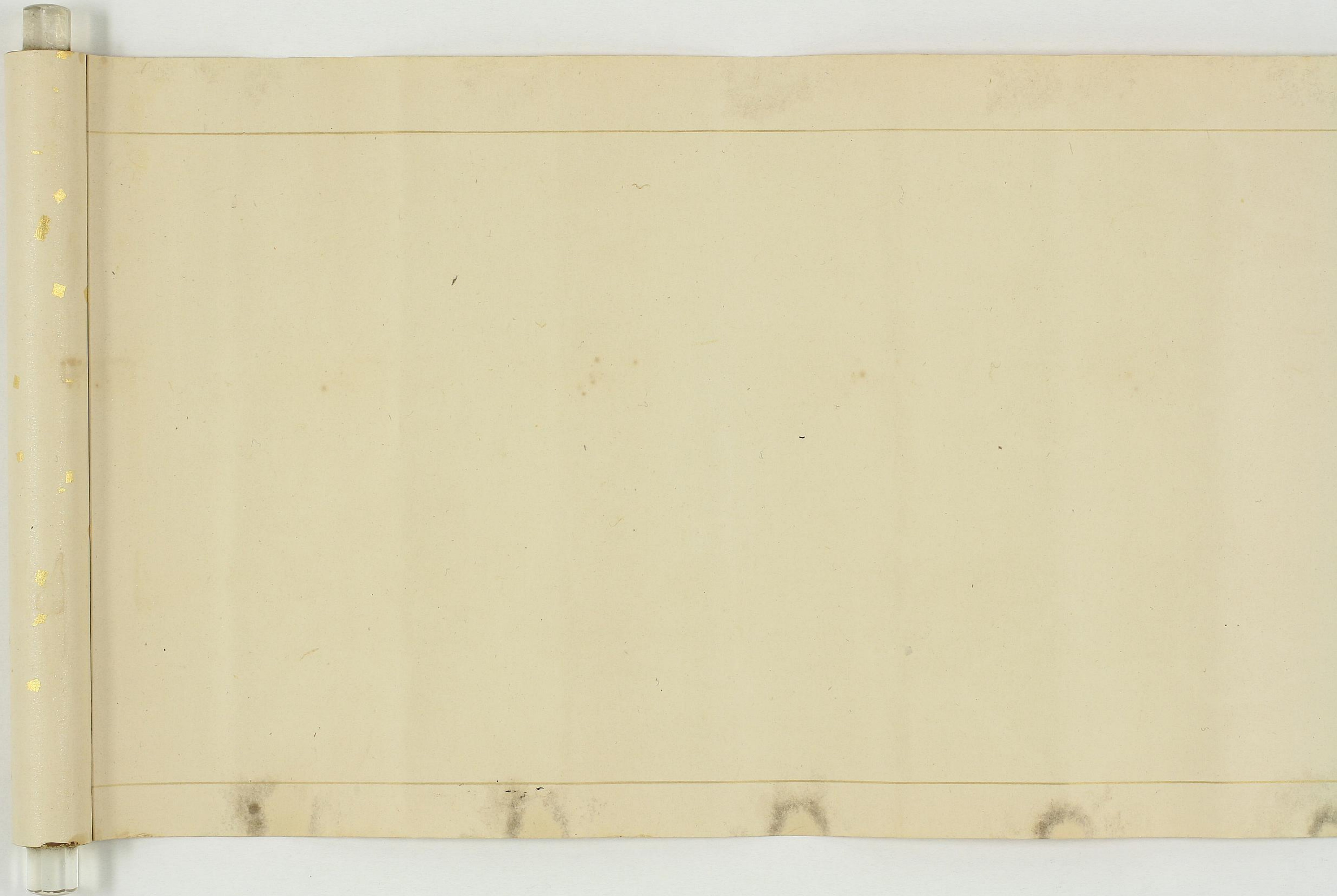
藤原弘前

魚

源熙氏尊公

源熙氏尊公





要之卷

特別

ケ5

754

13

